徳地町報

発行所 徳地町役場
発行者 坂本諦介
編集者 河村積
印刷所 今澄印刷所

今日為すことを明日に延すな

焼くより泣いて焼かない工夫

大徳地町の建設に邁進せん

徳地町長 伊藤三樹三

瑞光東天に輝く昭和三十二年の新春を迎え、謹んで町民各位に対し慶賀の御祝詞を申しあげます。

偉大なる私たちの故郷、大徳地町もいよいよこの建設第三年目に突入し、今年こそじっくり腰を落ちつけて、町百年の礎を築く本格的建設を押し進め、町の特殊事情を勘案し、財政再建を骨幹とする諸般の政治、行政の運営について目下雄大なる構想と計画を練っております次第であります。

この建設事業は長期且つ困難なるものにして、粘ばり強い忍耐、周到なる準備と綿密なる計画、適切妥当なる指導運営並びにこれを完遂する基盤は人の和を基調とする挙町一致の参加協力が望ましく、否その一つを欠くもよく初期の目的を完遂する事は至難の業と考えられます。

このためには、町政自体も所謂ガラス張りでよく民意を尊重し、民意の存するところをよく察知吸収して速かに町政に反映せしめること、是正しく民主政治の要諦であり、町建設の基本条件と考えられます。

不肖町民各位の絶大なる御支持をもって町政に就任以来、日夜肝胆を砕いて大徳地町建設のため微力を尽しつつありますが、今年は更に百尺竿頭一歩を進め、両期的施策を講じ、物心両面に亘る建設事業に卒先各位の先頭に立って邁進する覚悟であります。

茲に年頭に当り所懐の一端を披瀝して各位の御協力をお願い申しあげると共に、向後一年間町民各位の御健康と御一家の益々御多幸を祈念し年頭の御挨拶と致します。

活潑な意見の花が咲く

徳地町納め町議会

定例第四回年末納町議会は旧照十二月二十二日午前九時より出雲公民館に於いて開催、要望長人院中に欠席の外全議員出席、町よりは町長、助役以下各参与出席の下に開かれた。

当日町長提出の次の議案について慎重審議の上何れも可決確定せられ、午后五時半散会した。

一、佐波川えん堤残存建物購入について。

これは佐波川ダム入口にある県有建物を購入せんとするものであり価格も拾万程度の低廉なものである。

二、土地購入について

町立出雲保育園の敷地として堀小学校接の土地を購入するものである。

三、徳地町立出雲保育園建築工事施行について。

木造平家建瓦葺で八十坪七合五勺の建築工事を施行するものである。

四、柚野中学校改築工事施行について。

柚野中学校の火災による焼失家屋を原形復旧するものである。

五、昭和三十一年徳地町歳入歳出追加更正予算議定について。

既定予算額一〇、七六三、一四九円
変更予算額一三、三二四、六四九円
差引増額 一、五六一、五〇〇円

となりこれは国民健康保険関係である。

七、徳地町有林立木売却につき町議会の承認を求めることについて。

昨年麻野町に分譲した巣山地区による町有林、一町余の立木を売却せんとするものである。

八、記材に対する固定資産税の免除について。

九、徳地町選挙管理委員会委員の補充選挙について。

十、徳地町起債について。

十一、徳地町起債について。

十二、右 全

十三、徳地町課設置条例一部改正の件。

十四、徳地町耕地小災害復旧事業補助条例の制定について。

昭和二十六年及び以後の災害も農林省が示す査定は一地区拾万円以上となっておるので、これに満たない小災害は全額受益者負担で復旧するのは容易な業ではない。

よって小災害復旧事業に対し町が補助し農家経済に寄与せんとするものである。

十五、不要存地払下について。

鹿野町所在の町有林を払下げんとするものであるが、この問題は各議員によって議論が重ねられたが遂に一致点を見出すことができず、薦岡議長遂に投票によって可否を決する旨を宣し投票の結果賛成多数をもって原案通り可決確定された。

十六、地上権設定について。

引谷の白石山、野谷の釣山後三谷の大葉等を分収造林せんとするものである。

十七、町道の改修工事施行について。

町道、下藤木～沼田峠線二四〇米を改修せんとするものである

十八、昭和三十一年八月から九月までの天災による被害農林業者等に対する資金の融通に関する特別措置条例制定について。

十九、中央委老院組合規約の制定について承認を求める件。

徳地町建設審議会

——委員の人選きまる

町村合併促進法が寄年九月廃止せられ、これに代って新町村建設促進法が施行になり、当町は建設計画モデル町村として指定されたので、町長の計画調整のための諮問機関として今回徳地町建設審議会を置くことになり、これが委員として次の諸氏が選ばれた。

今后はこの方々が中心となり、いろいろ町の建設計画が審議答申せられた上、議会の議決を経て着々実施に移される運びになるわけで町民皆さんの御協力をお願してやみません。

徳地町建設審議会委員
（順序不同）

◎議会関係
有近利一（出雲）藤岡島一（島地）
山田正元（島地）中谷吾作（串）
栗屋且己（八坂）篠原登（八坂）
山根幸雄（柚野）
◎教育委員会関係
山本林作（出雲）有井義治（八坂）
◎農業委員会関係
原 晴（八坂）
◎婦人会関係
宮崎英子（出雲）
◎農協関係
林 実三（出雲）牛見千代一（島地）
戸田崇 遂（柚野）
宮田堯友（出雲）
◎農業共済組合関係
宮正末吉（柚野）
◎森林組合関係
武石恒夫（串）藤井 清（串）
◎学識経験者
藤井 清（串）
◎町関係委員
長嶺政男（助役）

土木の災害復旧は進んでいる

山口県は毎年のように台風の襲来を受け、その都度人命や財産に甚大な損害を出しています。

二十五年から三十一年までに発生した災害のうち、土木施設の復旧事業費総額はこれまで工事を終つたものも含めて県の行う工事で百二十八億円余、これに市町村で行う工事を併せると二百五億円余という途方もない巨額にのぼっています。

しかしこの復旧には、県や市町村では困難な財政事情のもとではありますが、皆さまの福祉を計るため最大限の努力をしておるのであります。

復旧計画によりますと、二十五年災害はこの三月までに二十六年～三十年災害は昭和三十五年までに完了させる予定になっています。

特に三十年以降に発生の災害については、法律の改正で査定総額の七割を三、五、二の比率で三ケ年以内に早く復旧することになり、前途は一段と明るくなりました。

ところで今年三月までに施行する県の工事は十一億二千余万円で、三十年度までに実施した分を含めると二十五年から三十年災害の約八割の復旧を完成することになります。

この三月末までに徳地町で実施する予定の県工事を紹介しますと次のとおりです。

災害年度	工種	事業費	箇所数
二十六年	道路	五八、〇〇〇円	一
二十七年	河川	二九一、〇〇〇	一
三十年	河川	二、二五五、〇〇〇	四
	道路	六九四、〇〇〇	二

第三回駅伝競走

堀中チーム好記録で優勝

第三回徳地町駅伝競走は一月十日前夜来の雨をついて決行ときまり早朝より各チームは続々参集したが、定刻より約一時間おくれて正午柚野支所前を出発する頃は若干雲間から陽光が射し、曇天ながら暖かい好天候も全く晴れ、路面はそこかしこに水たまりが出来コンディションは良好とは言えない。

各チームの選手たちは悪条件を物ともせず散々これつとめて力走又力走沿道は応援と歓迎の人々の波、頭張れ！しっかり、の激励の拍子に送られ、全六区間の大部分は殆んど島地中チームのトップで力走したが、堀中健尾又よく戦い最後の追込みに拍車をかけ、山畑～大久保間では遂にその差は僅に数十メートルに迫るに至った。

島地中学校々庭に設けられた決勝点前には数百の生徒、青年などが今おそしと待つ中に、佐波署員による先駆オートバイが静にすべり込むとつづいて、第一着堀中チーム河野選手、二着島中森実選手、三着堀中チーム河村選手の順で観衆の拍手に迎えられて次々とゴールイン。ここに全行程二十六粁に余る駅伝競走は公認記録一時間三十七分四十秒の新記録を樹立めでたくその幕を閉ちた。

終って午后三時より大会々長よりそれぞれ表彰あり閉会した。

当日の主な成績次の通り

◎中学校の部
一位 堀中学校チーム
所要時間一時間三十七分四十秒
二位 島地中学校チーム
所要時間一時間三十八分廿五秒
◎青年の部
一位 八坂青年団Aチーム
所要時間一時間三十八分三十秒
二位 出雲青年団Bチーム
所要時間一時間四十三分廿二秒
◎高等学校の部
佐波高等学校Bチーム
所要時間一時間四十一分二四秒

写真は柚野支所前のスタート光景

歳末助けあい運動 結果のお知らせ

募金と言へば又かと思うほどいろいろ種類もありますが、年の瀬に借かづつでも皆んなで出しあう助けあい運動程人情味を覚えるものはありませんネ。と誰かが言われたように町内でもその翌日から部落厚生員の方々が婦人会やその他大ぜいの方々の御援助で次々に本庁及各支所に持ちよられました。

町では民生委員中心に配分委員会を開いてそれぞれの御家庭にお届けして、皆さんの真心をお頂ちしあげると共に結果の大要を御報告申します。

茲に皆さま方の御協力に感謝申しあげます。

集ったお金と品物

現金参万壱千九百八拾五円也
豆類の現金化、壱千八百六拾四円
合計金参万参千八百四拾九円也
白米四石壱斗也
学用品画用紙半紙各五百枚
衣類、三四点

お配りした先

配分戸数一一九戸人員三二一名を主体に未帰還者、長期入院者、養老院生活者、傷痍軍人、身体障害を受けた方等にそれぞれ配分お贈り申しました。

基本選挙人名簿がきまる

町では昨年九月十五日現在で基本選挙人名簿を作製、それぞれ本庁及支所に於いて縦覧に供したのち、旧照十二月二十日をもって確定された。

各地区毎の有権者数次の通り。

地区名	男	女	計
島地	一、[illegible]	一、[illegible]	[illegible]
出雲	一、[illegible]	一、[illegible]	[illegible]
八坂	一、[illegible]	一、[illegible]	[illegible]
柚野	[illegible]	[illegible]	[illegible]
串	[illegible]	[illegible]	[illegible]
計	[illegible]	[illegible]	[illegible]

お知らせ板

住宅増築資金の貸出

期日は一月十六日～三月三十日迄貸付金は木造の場合五年以内の年賦償かんで、利率は年五分五厘但し住宅のみに限る

詳細は厚生課へお尋ね下さい。

民生委員の氏名がもれていたので追報する

島地々区 高原マツメさんの名がもれていたので、了承下さい。

堀保育園の保姆募集

一、採用予定人員 数名
二、保姆免状保有者に限る
三、採用時期四月一日付の予定
四、給与はせんこうの上決定
希望者は履歴書を厚生課に提出のこと。

百年前の徳地

お正月ものがたり

田村哲夫寄

十年一昔というが、私たちの風俗や習慣にも昔そのままのものもあり、今はすたれてなくなったものもある。

そこで百年前といえば天保の末頃のこと、当時の徳地の庄屋（今の町長さんに当る）から、富主毛利の殿様へ差し出した。

徳地風土記

という本の風俗の部をのぞいて当時のお正月のもようをあらまし書いてみよう。

徳地の正月行事は十二月十三日から始まる（以下は原文を要約したものである）

十二月十三日

正月事始、神棚すす払い今夜から年徳神へ御燈郡酒を備え初める下男下女出代り（十日に下男下女帰り、十二日に島地で奉公人市がたち、出る人、入る人皆市に立て身の程に応じた買物などして茶店にて酒などゝ汲みあう、もつとも入る人は来て三日は休んだ）

十二月二十二、二十六の両日は島地市、二十七日は小古祖市、近在より正月飾物、餅の動物、正月調度など年用意買物相すませ、破魔弓、てまり童（子供の意）へつかわす。

除夜、たら花を飾りいり豆をまく（この豆をもつて火を改め焼いて月々の晴雨を占う）

また吉日をえらびて飾縄、歯朶年用意す。

大みそかには家宅所の神社、祭所、農具に至るまで飾を奉る。

餅つきの時、わら出し是を農初という（これで五月の苗を束ねる）

正月元日には歯朶、ゆづり葉、掛け鯛、昆布、いわし等を飾り、神仏へ鏡餅、雑煮、いわし（田作りといい伝う）を飾う。

お福らかし（餅をあぶり福来る菓子という）大福を呑む、男子は「きつそふ」（木を切ることを祝う言葉という）

この時餅一重、歯朶、蓬すとを持ち行き、切株へは餅を備へ、歯朶蓬と餅とは蓬すとへ入れ、木へくくりつけ（これをもつて五月の初旬に田植の蛭を焚くなり）取り帰って餅を年神へ上げ、後に家内で頂く（夏病を除くといい伝う）

雑初めとて、恵方に向い殺をふり初める（餅、歯朶、きつそふに全し）朝の雑煮を祝い居酒を汲む、餅つきの時、かい水をしたるほうきをひつさげる、それより諸事の行始む、長立ちたるものは、吉書始めをして、上下又は袴、羽織、中帯にて社参、先祖の墓寺所へ参り、師家、地下役所、親類、朋友へ年頭の祝辞を申し述ぶ。

三日まで遊ぶ、この三日の中は大みそかの夜より食物は男が仕出し、僕婢に至るまで三日間身のほどに衣服かいつくろい、親之へ年礼に行く（餅をつかわす）童は破魔弓を射ち、娘はてまり、むくろじをつく。

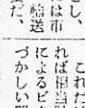
正月四日祝外節をおろす、紙漉その外自身自身の業をはげむ、思い思い師の大夫を申し受け家別日待をなす。

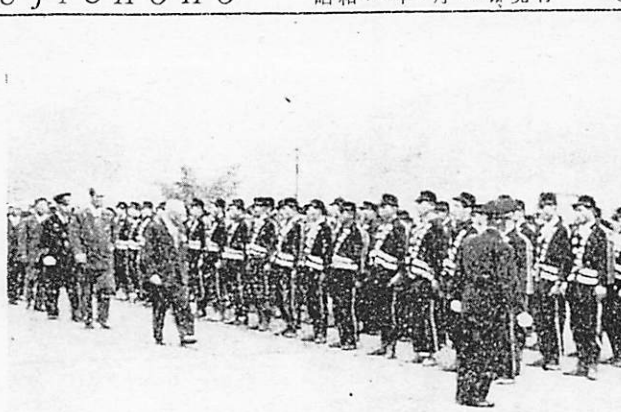
七日には七草粥をたく

十一日苗代すきはじめ、牛を引き行く又、近所催物にして猿尾打（一鍬の先振結これより始め初牛の具引結これを神棚へ奉る）この日あそぶ、十四日内飾を下ろし（十五日又は十四日）童は吉書、（庄方閲吉）下男下女にいたるまで参詣。二十日「つつぼだんご」をこしらへ年徳神へ備へて麦をほむる（笠を着、みのをさかしに着てほむるなり）この日遊ぶ、定日当夜をくじとりをもつて定む、地神祭盲僧来り祭を調へ農を田島に立つ。

以上が百年前に書かれた一月中の行事のあらましであるが、日付は皆旧暦である。

（筆者は図書館長）





写真は伊藤町長の人員　服装点検

第二回消防出初式

功労者三十五名表彰さる

第二回徳地町消防団の出初式は一月五日午前十時より島地中学校庭に於いて挙行せられた。

この日各分団の着装は早朝よりそれぞれ地区毎に勢ぞろいの上、機械器具を整備して、続々会場に参集意気まさに天をつくの概があつた。

一方斉藤県議、佐波賀長、町議会議員、地元有志等の来賓も続々来場され、町側は三役及び関係課係並びに各支所長等列の上、管下消防団員は定員の三分の一の人員及び機械器具は非常事態に対処のため地区毎に待機し、総人員三五〇名が参加ポンプは自動車ポンプ一台、手引及可搬動力ポンプ十五台の参加の下に盛大に挙行された。

式は型の如く進められ、消防長の訓示、団長挨拶などあつて、別項の如く表彰状の授与が行われ、放水訓練は島地小学校前の県道上に於いて、白章天に躍る壮観なる放水を行い、近代化された消防陣の威力を発揮、数百に余る観衆に安心感を与え、放水訓練が終るや市中行進を兼ねて大分列行進は勇壮な行進曲のリズムにのつて展開せられた。伊藤町長、佐波賀長は観閲台に立つて熱心にこれに応えた。

再び全員島地中学校庭に参集講評の後、来賓の祝辞をうけ、一同島地々区に繰くばかりの万歳三唱滞りなく式が閉ちられた。

当日光栄の表彰者

（特別功労者として功績章授与）

徳地町消防団長　藤本　経雄

（永年勤続章授与者）

河津産一（出雲）

三十五年勤続

二十五年勤続　豊田文雄（出雲）

二十年勤続

栗屋章（出雲）　栗屋卓江（出雲）

尾木保正（出雲）　黒瀬貞次（出雲）

井原　茂（島地）　武石品一（串）

桑原直蔵（串）　岡崎年人（八坂）

村田還蔵（八坂）　上野　了（八坂）

弘中　正（八坂）　山根松次（八坂）

十五年勤続章

大谷　昇（八坂）　大野武夫（串）

吉松清一（八坂）　桑原義明（八坂）

伊藤　瑛（八坂）　辻村悦夫（八坂）

白松安夫（八坂）　橋永　要（八坂）

石井　武（八坂）石野登名一（八坂）

伊藤益治（八坂）　高橋幸夫（八坂）

竹内一男（八坂）　竹内昌夫（八坂）

中田清一（出雲）　中川俊治（出雲）

山本義雄（出雲）　長沼正里（出雲）

吉松真一（出雲）

順序不同敬称略

部外関係表彰

町内三二七名

成人式盛大に行わる

第九回成人の日の一月十五日、夜来の雨もからりと晴れて、幸先よい門出の日となつた。

町内三百二十七名（男一六四名女一五三名）の若人たちは、今日よりは一人前の人間として、はれて大人の列に仲間入りする希望に顔を輝かせ、続々と出雲公民館に参集した。

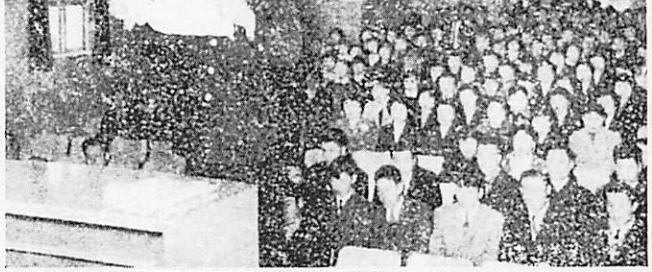
主催者町長及び来賓から数々の祝と激励の挨拶があり、男には栗、女には桐苗各一本宛記念品が贈られ、記念撮影映画観賞などあり、意義深い一日を送り午后二時半帰途についた。

（写真は成人者代表答辞）

島地小学校児童会終戦後引続いて毎年夜警に協力する等その自主的協力奨励が表彰されたものである。

今年こそ＝野菜の計画栽培

新生運動へ第一歩



一年の計は元日にあり

野菜は自給用、販売用の二種に分けられるが、余つた野菜を附近の小消費地で販売するのは別として、一つの特産品的なものとし、大消費都市に共同出荷するには市場の状況、栽培適地や技術、輸送方法等よく研究と準備が必要だ、

自給野菜についてもビタミンの不足を補うには緑野菜四〇匁その他の野菜五〇匁は毎日食べないといけないとされている。

これだけの量を毎日食べるとすれば相当計画的に作らないと野菜によるビタミンA、Bの自給はむづかしい問題だ。

自給野菜のためには緑野菜四〇匁の他の野菜五〇匁は毎日食べない

私たちは自分たちの毎日の食卓に供せられる野菜を一寸考へて見よう。健康保持上必要な野菜が果してとられているだろうか？

計画的に野菜を作っている農家では毎日毎日大根や白菜の連続でなく、人参、ねぎ、ほうれん草は言うに及ばず、夏まきカンランを利用したり、青々とした冬大根の葉や根も食べてみる。

こうした事は決して貧紙の上の計画でなくその実行を熱心に考えて工夫している生活改善クラブなどは早くから実行されている。

そしてこれは貧野菜のみでなく、広く食生活全般に押し進め、卵、肉、乳、魚や油をとる作物の栽培にまで組合わせられ実行せられてこそ真の自給自足、明るく豊かな農民生活が打ち立てられるといえよう。

自給野菜が数多く作られ、新鮮で栄養価高いものが日常食べられれば、健康な生活を営むことができ、その原野菜は年間絶へずニウトリや他の家畜にも廻つて彼等も

秋落の防止

耕土培養で増収できる

毎年収穫時期になると青田はよくできた稲が胡麻葉枯病などになり、秋が多くいわゆる秋落するのであるが、農家では秋落だから致方ないとあきらめられているようだ、然しこの原因を研究して対策を講ずるならば、農家経済に益するところ大なるものがあろう。

徳地町の全耕地面積の三分の二がこの秋落田ということは情ない現実ではあるまいか。

徳地町に秋落田の多い原因

土壌の生立ちが花崗岩質であるからで、花崗岩は長石、石英などからなつており、これは大変風化し難く、含有成分は殆んど珪酸で従つて酸性土壌になり易い。

粘性が少く、肥料持が悪い。ぜとのような土壌が秋落するかと云えば、冬期間風化されて窒素の供給がこんな田は肥料を何回にも分けてやると防ぐことができるが、労費が多くなるので、耕土をよくする外方法がないと思われる。

直す方法

前者は鉄を補給すればよく、後者の場合は粘土を客土すれば防げるのである。

そこで客土培養の必要が生ずる。耕土培養資材として現在代表的なものは、ボーキサイト滓、高炉滓、鶴見滓、大谷石、温水田平炉滓の粘性の強い客土をするのが一番よい。（農業改良普及だより）

漏水田の秋落は

漏水田では鉄欠乏の場合もあるが、主に土壌に粘性が少く肥料が吸着されず、施肥した肥料は大量に流れ去るか、粘土が少く肥料が吸着されず、施肥した肥料が稲に吸収されず、稲の根が鉄の皮膜に被われて硫化水素を消滅させることができ、根腐れが起らないのである。

によるものでなく、硫酸を含んだ肥料の多用によつて、土壌中に硫黄分を多くし、還元の進むに従つて硫黄と水素が化合して硫化水素という有毒ガスが発生し根をくさらすのである。

この時期に「田が濁ると言われるが、濁る田は大小にかかわらずこの濁りは金肥地の全体を見て差支えない。どうした時期に土壌中に酸化鉄が充分にあれば、稲の根が鉄の皮膜に被われて硫化水素を消滅させることができ、根腐れが起らないのである。

漏水田の秋落は

漏水田では鉄欠乏の場合もあるが、主に土壌に粘性が少く肥料が吸着されず、施肥した肥料は大量に流れ去るか、粘土が少く肥料が吸着されず、施肥した肥料が稲に吸収されず、稲の根が鉄の皮膜に被われて硫化水素を消滅させることができ、根腐れが起らないのである。

今年こそわれらの当り年だと、ハリキリ卵をどんどん産んでくれる事でしよう、

× × ×

二月の終り近くなると温床ではナス、トマトなどをまくが、直播するものでは、一月の終り頃には春用の時なし大根、ほうれん草のミンスターランドなどがまける。

◎玉ねぎ

苗があれば移植として二月上旬までに植えてもよい、二月下旬から先になるとトウ立ちが多くなつてダメになる。

◎手入れ

二年子大根、かんらん、玉ねぎいちごなど充分追肥をやる。

◎準備

三月はじめにはピースの支柱を立てなければならないから、支柱横竹、抗などは忙しくないとき準備しておこう。

西瓜の肥土（ボカシ）も早く作つておかないと間に合つてあわないので、充分な生育がのぞめない。（この稿未完）以下次号